



“継承していきたい” その思いがまつりを作る

大四日市まつりに向けて、特別なことはしていません。まつりとは、踊りと伝統芸能それぞれの演じ手の、「去年よりもっと良いものを」「この先も続けていきたい」という気持ちの集合体なんです。あとは「本番で誰よりも自分が楽しむこと」。この気持ちが大四日市まつりをつくっています。



企画検討委員会 委員長
川北悦男さん

夏になれば大四日市まつりに向けて顔を寄せ合い練習をする。毎年のごとで、当たり前のようになっているんですけど、これが結構重要なことなんですよ。少子高齢化が進んで、後継者の確保が難しくなっている地域が多くあります。まつりを続けるのも“人”、終わらせてしまうのも“人”です。「いかに“人”を育てるか」ということが今後、まつりを継承していく中での課題だと感じています。

そして今年は開港120周年ということで、港まつりが千歳町で開催されることもあり、大四日市まつり会場と港まつり会場が一体となって今まで以上に盛り上がるでしょう。

想像以上に大勢の人たちが関わって、大四日市まつりがあります。今年はその人たちの思いに少しでも寄り添う気持ちを大事に、大四日市まつりを楽しんでほしいです。



熱気と感動がまちをつつむ「大四日市まつり」

心に刻まれる夏

毎年8月の第1日曜とその前日は、四日市が1年の中で最も熱気に満ちる日。三滝通りを練り踊る“輪踊り”や、各地区から集まる迫力ある“伝統芸能”。毎年、大きな反響を得ているこのまつりは、市民の皆さんはもちろん、帰省客や市外の人々の夏の思い出を彩ります。そして、華やかな表舞台の裏側には、裏方として汗を流す人たちの存在があります。今回は、こういったまつりを支える人たちの活動に迫り、大四日市まつりの魅力や歴史をお伝えします。地域が一つになる、地元愛があふれ出す、そんな瞬間をこの夏一緒に体験しませんか。



地域の人たちの協力なしでは成り立たない

大四日市まつりが終わった後のことを考えたことはありますか。

残念ながら、まつりの後の会場には空き缶や食べた後の容器などが散乱しています。しかし、ずっと汚れたままであることはなく、知らない間に日常に戻っていると思います。その裏には、まつりの翌日から、炎天下の下ボランティアで掃除をする地域の人たちや、企業の皆さんの姿があります。

まつり当日の見回りやごみ箱の増設、来場者の意識向上などで年々マナーは良くなっていますが、現状はまだマナーに反した行動が見られます。

「誰にとっても気持ちのいいまつり」にするため、こうした地域の人たちの多大な協力があることを忘れてください。



まつり × おど

三滝通り会場で、夜から始まる「コンテストおどりフェスタ」。会場はより一層熱気が高まります。昨年度、「農芸DANCE」は、円陣を組みチーム一丸となって優勝を勝ち取りました。



実は、初回の大四日市まつりには伝統芸能が登場せず、踊りを中心に全市民が参加できるような内容で行われました。市制80周年の昭和52年には、「まつり音頭でシャンシャンまつり音頭でヨイヨイヨイ」ですっかりお馴染みとなった“大四日市まつり音頭”が誕生しました。さらに盛り上がる大四日市まつりを目指し、途中にサンバを取り入れたり大四日市まつり音頭をリニューアルしたりするなど流行とともに形を変えてきました。

そして、市制100周年の平成9年には「おどりフェスタ」が始まりました。現在は、市民総踊りに加え、子どもたちによるリトルおどりフェスタとコンテストおどりフェスタで三滝通りは活気にあふれます。



とにかく体を揺らして参加して

私は踊ることが大好きで、おどりフェスタが始まった平成9年より前から大四日市まつりに関わっています。とにかく、「四日市市に踊りを定着させたい」という思いから、まつりで踊りたいと希望する団体を指導してきました。

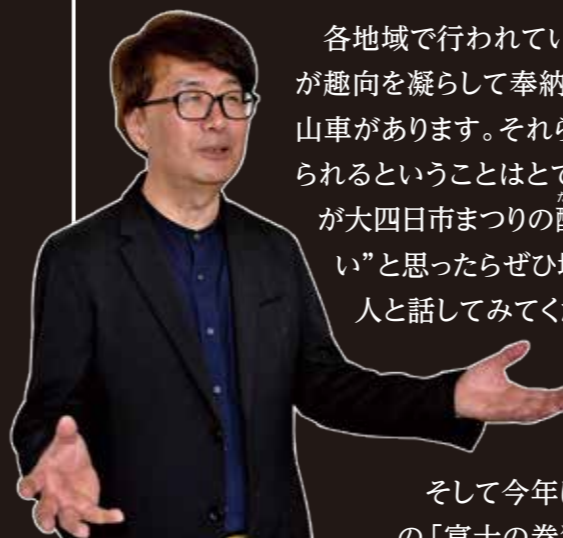
おどりフェスタ参加連 代表
杉町恵美子さん

おどりフェスタの特徴は、曲を変えずにずっと大四日市まつり音頭で練り踊ることです。基本の振り付けもありますが、オリジナルの振り付けで踊る団体もあって、とにかく楽しさ重視で踊っています。

大四日市まつり音頭を聞いたら「四日市の夏が来た」と思う人も多いのではないのでしょうか。ぜひ、一緒に踊って心の底からまつりを楽しみましょう。

勇壮な太鼓の響き、神輿を担ぐ掛け声、汗を光らせ山車を引く子どもたち——。独自の形態を伝承しつつ、時代に合わせた魅せ方を取り入れながら、絶やすことなく脈々と受け継がれる山車やネリなどの行列は見ものです。

興味を持ったなら地元も訪ねて



四日市市の祭りを学ぼう会 会長
前田憲司さん

各地域で行われている「祭礼」の中で、各団体が趣向を凝らして奉納する「ネリ」。その一つに、山車があります。それら演技が、一つの場所で見られるということはとても貴重なことで、これが大四日市まつりの醍醐味とも言えます。“面白い”と思ったらぜひ地元を訪ねて、その地域の人と話してみてください。歴史や伝統を知ることでもっと大四日市まつりを楽しむことができますはず。

そして今年は亥年にちなみ、南浜田町の「富士の巻狩り」が22年ぶりに登場します。今回は、市民の皆さんを巻き込む形式で行います。イノシシとなっても暴れ回りましょう。

まつり ×

伝統芸能



富士の巻狩り (南浜田町)



“富士の巻狩り”は、鎌倉幕府初代将軍源頼朝が富士の裾野で催した動物狩りの様子を、仮装行列で再現した「ネリ」です。

元来の演技は、子どもが扮するイノシシ・ウサギや大きいものは全長4.5mもある大イノシシが逃げる後を、源頼朝と10人ほどの家臣が、皆で射止めに追い込んでいく様子を再現しています。源頼朝役は、町内で協議し選ばれた子どもで

す。代々受け継がれる装束に身を包み、馬にまたがり槍を突きイノシシの最後を仕留めます。会場では大四日市まつり仕様の演技をお楽しみください。

参加者募集!

今年の富士の巻狩りは“参加型”。詳しくはホームページ(HP) <https://kankou43yokkaichi.com/matsuri/> をご覧ください。

まつり × 歴史

平田市長とミス四日市のパレード



大入道や鯨船、そのほかの山車や練り物が登場する大四日市まつりは、今や夏の風物詩と言えます。しかし、このような姿は比較的新しい姿です。56回続いてきたまつりには、それぞれの時代にある社会情勢の変化や市民の意識変化など、さまざまな移り変わりを敏感に取り入れています。



大四日市まつりに、大入道・鯨船・菅公の山車が初参加。繁華街の笹飾りや、大盛況の港めぐり、花笠にゆかた姿の婦人会約600人によるおどり行進など催し物がたくさん行われた

「大四日市まつり」と「四日市祭」

「大四日市まつり」と「四日市祭」は、混同されやすいですが別の行事です。「四日市祭」は、300年以上の伝統をもつ諏訪神社の例祭であり、現在は10月の第1土・日曜日に行われています。大四日市まつりに登場している山車やネリなどは、この「四日市祭」をはじめ、市内各地の伝統行事が、いわばゲスト出演しているのです。



見ている人も楽しい踊りを意識し、おどりフェスタが始まる

現存する中部地区のネリが勢ぞろいする



鳥出神社の鯨船行事がユネスコ無形文化遺産登録されたことを記念して“神社丸”“神徳丸”“感應丸”“権現丸”の4艘が登場

1964

市制記念日の8月1日から開港記念日の4日までを開催期間として、それまでの「商品祭」「七夕まつり」「港まつり」を統合して大四日市まつりが始まる



港まつりの中心行事「港めぐり」四日市港の重要性を認識してもらい関心を高めようといわれた



商品祭の出し物 商工業の感謝と繁栄を祈願するため、諏訪神社に商品を奉納する行事に合わせ、商店の人々がバーゲンや福引などを行っていた



七夕まつり 牽牛(彦星)と織女(織姫)が三滝橋で会おう催し物に合わせ、商店街は多数の笹によって飾り付けられた

1965

1972

中部地区のネリが初めてそろい、南浜田の富士の巻狩りや日野の大念仏・松原の石取り・富田の鯨船も参加する

1974

7月に発生した大水害で、大四日市まつり・四日市祭ともに休止

四日市港開港120周年記念

四日市港まつり

8月3日(土)・4日(日)

令和元年8月4日で、四日市港が開港120周年を迎えます。これに合わせて、平成10年(1998年)以来21年ぶりに四日市港四日市地区(千歳町)で開催します。

所 四日市港四日市地区(千歳町)
内 3日の午後と4日に帆船海王丸の一般公開を実施。4日には港湾関係団体による展示やイベント、カッターレース大会、飲食ブースの出店などが行われます。他会場へは近鉄四日市駅発の無料シャトルバスをご利用下さい

問 四日市港まつり実行委員会事務局
☎366-7022

1993



若者の参加を狙い、当時流行していたサンバのリズムを取り入れたサンパフェスタが始まる

1997 市制100周年



第50回目の開催を記念して、かえりやま※を披露。児童に変装した大入道が観客を惹きつけた
※四日市祭の最終日、諏訪神社へ奉納後、各町のネリが変装を施して各町へ帰るといふかつての行事

2000

開催日が、8月の第1日曜とその前日の2日間に変更

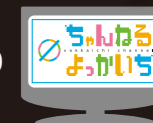
2013

2017 市制120周年



今回の特集の内容は市政情報等提供番組「ちゃんねるよっかいち」でも紹介します。

●地デジ12ch(CTY)
●7月1日(月)~10日(水)に放送
月・水・金・日曜日 9:30、20:30
火・木・土曜日 12:30、20:30



ちゃんねる
連動

●この特集についてのお問い合わせ・ご意見は 観光交流課 ☎354-8176 FAX354-8315
広報マーケティング課 ☎354-8244 FAX354-8315